

平成29年度 施策評価表

課・グループ名	生涯学習課社会教育グループ
---------	---------------

作成年月日：平成30年9月28日

3 - (3) - ③ 社会教育の充実			
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(3) 豊かな心を育てる生涯学習・社会教育の推進	③社会教育の充実
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ● 町民の様々な学習ニーズを大切に、地域の課題に取り組むため、関係機関や団体との連携を図り、学習情報や学習機会の提供に努めます。 ● 個人の要望や地域社会が求める学習ニーズに対応するため、主体的で継続的な社会教育活動に努めます。 ● 高齢者への学習機会の提供やボランティア活動への取り組みを推進します。 ● 団体の自主的・主体的な活動を助長しつつ、関係する社会教育事業の企画や運営を協働で行うことで、町民と交流する場を広げ、地域活動の活性化につながる団体支援に努めます。 ● 生涯学習サポーター制度をさらに充実し、町民や学校などの多様な学習要求に対応できる人材の育成や活用に努めます。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 価値観の多様化や少子高齢化が進む中、町民が生きがいを持って、明るく豊かな生活を送るため、個人の要望と社会の要請に応じた学習の機会や情報の提供が求められています。 ● 町民の学習意欲の高まりや学習要求に応え、あらゆる機会・場所において活動し、学ぶことができる環境づくりが求められています。 ● 本町の社会教育活動については、地域青年団、PTA連合会を中心にそれぞれ自主的・主体的な活動に取り組んでいます。 ● 生涯学習社会が進展する中、町民や学校などの多様な学習要求に対応する人材の育成や活用を図ることが求められています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会の変化に伴う地域課題や生活課題を把握し、関係機関や団体と連携を図り、様々な学習ニーズに対応した学習機会を提供することが必要です。 ● 高齢者が生きがいをもって豊かな生活を営むことができるように学習機会の提供やボランティア活動への取り組みを推進することが必要です。 ● 地域活動を活性化させるためには、それぞれの団体との連携・協力を深め、自主的・主体的な活動を支援することが必要です。 ● 様々な学習活動によって得た知識や成果を生かせるような仕組みや支援体制の整備などが必要で。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況									
① 成果指標	設定の意図		まちづくりの成果指標名			数値化			
	町民の様々な学習ニーズに対応するため「ふるさと南幌みらい塾」において様々な講座を実施している。そのため、「ふるさと南幌みらい塾」受講者の満足度を代替指標とした。		成果指標 (総合計画・施策評価)			可 能			
						不 可 能			
			代替指標 ※成果指標がない場合			未計測			
			成人教育推進事業における「ふるさと南幌みらい塾」講座参加者の満足度			○ 可 能			
			不 可 能						
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。									
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由		
		H26	H27	H28	H29	H33			
	目標	%		-	-	96.0		96.0	ふるさと南幌みらい塾運営委員会と各講座受講者のアンケート結果などから町民ニーズに基づいた講座を実施しているため受講者の満足度は、概ね目標値を達成している。
	実績	%		95.7	95.1	94.2			
達成率	%				98.1%				
評価視点		評価結果			理由・課題・問題点				
③ 施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)			施策の達成度	上記の理由により目標値は概ね達成されているが「ふるさと南幌みらい塾」受講者の高齢化、固定化が課題である。			
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)							
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)			A				
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)							

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への 貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業 番号	事務事業名	種 類	所 管 課 名	成 果 指 標	評価年度(H29)		事務事業の内容	必 要 性	妥 当 性	事務事業 評価結果 (方向性)		事業費(千円)	
					目 標	単 位						H29実績	H30予算
					1	成人教育推進事業					(1)	生涯学習課	各講座への参加者が満足したと回答した割合
					94.2	%	606						
2	地域活動活性化事業	(1)	生涯学習課	活動延べ人数	700	人	地域ボランティア推進事業、社会教育関係団体支援事業などを実施	II	I	1 現状のまま継続	527	高い	
					541	人					621		
											年度別施策全体の事業費合計(千円)		
											H29事業費	852	
											H30予 算	1,227	

②H30に実施した新規事務事業					
実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)	
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	生涯学習社会が進展する中で、各世代のニーズを捉えた学習機会の提供や、地域の人材を活用した活動は重要であることから事業構成として妥当である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	事業構成の 妥当性	A

4. 今後の方向性 ※外部評価 (行政評価委員会)										
①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	【評価】 特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の 方向性	事業番号						平成30年度以降 の予算の方向性	
			A							
			B	1						拡大
			C	2						○ 維持
			D							縮小
		優先度 A~D (ランク)								